

いつもありがとう 「運動ぐつ」

静岡県 牧之原市立地頭方小学校 六年

小笠原 遙菜

私の平日の行動習慣は、学校が終わり、帰宅の途中に祖父の家に必ず立ち寄る。

祖父の家は、学校と自宅の途中にある。

理由は、両親が共働きのため、自宅のカギが閉まっているため、両親が仕事が終わってむかえにくるまで、祖父の家で休けいしたり、勉強したりして、過ごす。夏の時期は、私が汗ダラダラで帰ってくるのを祖父母達は楽しそうに見ながら「おかえり」という。冬は、日が短いため、辺りが暗くなり始めているのを心配していた様子で、「おかえり」という。そして、私は、その日一日の学校での出来事を祖父母達に話すのが、平日の目課になっている。たまに、つかれて祖父母の家でねてしまったりするが、私のね顔を見るのが祖父母達の楽しみの一つだそう。そんな祖父母達を私は大好きだが、二人とも高れいなため、二人とも病気や体の痛みが出始めている。それは、私にとって、とても悲しいことだ。それでも、祖父母達は、自分達の体よりも、つかれよりも、私の方を大切にしてくれる。それは、祖父母達が口に出さなくても、私には十分に伝わってくる。そして、祖父はいつも私に同じ質問をする。その質問とは「運動ぐつはまだ大丈夫か?」「運動ぐつがなかったら買ってやるぞ。」という。確かに、私の通学きよりは長く、運動ぐつはすぐにすり減ってしまうが、祖父が言うほどの間かくでは運動ぐつはまだすり減らない。なんでそんなに祖父は運動ぐつを気に

するのかわ不思議ではあったが、あえて聞き返しもしなかった。そんな日が続いていったが、私の父が、祖母に、「なんで祖父は、遙菜の運動ぐつを買ってあげるっていつも言うの?この前買ってもらったばかりだよ。」って祖母に聞いた。そして祖母は、「祖父は、終戦直後に生まれて、軍人だった自分の父親は戦死したでしょ。終戦直後は日本は物がなくて、今みたいな運動ぐつなんてなかった時代だったんだよ。さらに、祖父のお父さんは、軍人で戦争で亡くなったから、運動ぐつなんて買ってもらえなかったんじゃないかな?祖父は子供ごころに、新しい運動ぐつをほしいと思って子供時代を過ごしたんじゃないかな?だから遙菜の運動ぐつを買ってあげようと思ってるんだよ。」って話をしてくれた。確かに、私は、祖父のお父さんが戦死していたことは知っているが、運動ぐつに対する祖父の気持ちまでは、知らなかった。私は、そんな祖父の気持ちを今まで知らなかったことをとてもはずかしく思った。でも、祖父は、私にいつも運動ぐつを買ってくれている。自分が子供の時にした苦勞を私にはさせない心づかいである。私は、祖父が買ってくれた運動ぐつをとても大切にはきます。だれよりも長く使えるように大切にします。そして、私には決めたことがあります。私が大人になって初めてもらった給料は、祖父にくつを買ってあげようと決めています。それまで、長生きしてください。約束ですよ。